

平成26年度 第3回 蕨市公民館運営審議会 会議録

開催日時	平成27年2月19日(木) 午後3時～午後4時30分
会場	中央公民館1階講座会議室
出席者	上野会長、梅田副会長、塘委員、中村委員、菊池委員、宮田委員、中捨委員、大鷲委員、長谷川委員 9名 松本教育長、増山教育部長 榎本次長(教育部次長兼生涯学習スポーツ課長)、鈴木係長(生涯学習振興係長) 加藤館長(中央)、倉石館長(東)、星野館長(西)、加納館長(南)、松永館長(北)、竹内館長(下蕨)、井田館長(旭町)、桑島係長(中央)、竹田主査(生涯学習スポーツ課)、長友主事(北)、柏瀬主事(西)、安部主事(中央) <合計>25名
欠席者	松原委員、山田委員、高野委員、園川委員、秋山委員、小澤委員
添付資料	1: 第3次蕨市生涯学習推進計画(案) 2: 蕨市公民館の概要 3: 平成27年度 生涯学習活動推進事業について 4: 第67回(平成26年度)優良公民館表彰について 5: 各館事業チラシ
会 議 内 容	
<p><公民館運営審議会> 午後3時</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. あいさつ <ul style="list-style-type: none"> ・上野会長あいさつ ・松本教育長あいさつ 3. 前回議事録の承認 4. 議事 <ol style="list-style-type: none"> (1) 報告事項 <ul style="list-style-type: none"> ・第3次蕨市生涯学習推進計画について 資料1に基づき、生涯学習振興係長から説明 委 員：学習につまずいた中学生向けの施策はあるか。 教育部長：公民館では中学生向けの土曜塾、放課後子ども教室のようなものは行っていないが、夏休みを利用して学校では補習を行っている。また、生活の困窮等で塾に行っていない子の支援は別の形で行っている。 会 長：中学生対象の講座がやっていないということだが、10年くらい前は思春期講座など情操教育もあった。部活動を行っていない生徒もいることから、中学生を対象とした公民館講座があってもよいのではないか。 今回、推進計画のなかでは学びの地域社会への還元が謳われて 	

いる。かつての公民館利用者はそのような教育を受けてきた。現在、様々な人が公民館を利用しているが、学んだことを地域に還元することによって地域力やコミュニケーション力が育まれる。計画書を作った後、フォローアップとして利用者へ学びの還元について周知することが計画を活かすことになる。

委員：市民意識調査の結果から、市民にどう参加意識をもってもらうか、参加してもらうかが課題である。広報の効果が表れていないと思う。市民への意識づけが必要ではないか。

・蕨市の公民館について

資料2に基づき、長友主事、柏瀬主事から説明。

(2) 協議事項

・平成27年度生涯学習活動推進事業について

資料3に基づき、中央公民館長より説明。

中公館長：方向性の検討を願いたい。

委員：けやき文化賞受賞者に講演会をしてもらうのはどうか。または子ども対象に活動している方の講演会はどうか。

委員：以前に西公民館では若い世代を対象にワークライフバランスの講演会を行ったことがある。若いお母さんたちも参加できるようなものが良いと思う。

委員：蕨の文化人を集めてイベントをやれば蕨を発信できてよいのでは。隠れた人材を活かすことができればよい。

委員：高齢者は健康と生き方（終活）に関心がある。市民会館ホールを利用して多くの方に聞いていただき、蕨の教育を見直すきっかけになるようなフォーラムはどうか。

委員：蕨には文化人がたくさんいる。そのような方にお話していただければと思う。

委員：生涯学習推進事業は2年に1回開催ということだが、効果はどのくらい期待できるのか。

中公館長：各地区には毎年行っている生涯学習フェスティバルがあるが、推進事業はこれらを集約し、準備もふくめて隔年で行っているものである。

委員：現在、中央公民館で活動する蕨パソコン支援隊では、公民館活動の周知も兼ねて、利用団体を紹介するビデオをつくらうということになっている。それについて、他の公民館からもバックアップをお願いしたい。ビデオをシェアして流したりし、クラブ活動へのきっかけづくりになればよいと思う。

委員：生涯学習推進事業は個々の公民館が単独で行うことではなく、公民館全体で取り組むもの。有名な方を呼べば、生涯学習の周知が期待できる。

会長：前回のテーマは新しい公民館への過渡期にあるなか、次の世代

に生涯学習をどうつなげていくか、ということであった。

委員：やはりある程度の有名人を呼んで行うのが良いと思う。

委員：くるるのホール収容人数は180人くらいだと思うが、その程度の参加人数で、2年に1回の開催効果はあるのか。推進事業というタイトルからは地道な活動に重きを置いたほうがいいのではないか。

委員：推進事業の意図するところは地道な広報活動ではなく、ひとつの催し物を通しての啓発や普及である。市民に広く生涯学習を周知する事業として、推進事業と生涯学習フェスティバルが挙げられるが、前者は公民館が主軸となってイベント色のある事業を行う催しであるのに対し、後者は公民館利用クラブが主軸となって公民館で発表を行う催しである。それぞれの良いところを組み込んで行うという選択肢もあると思う。

中公館長：地区フェスティバルが終わったところから推進事業実行委員会を組織していきたい。

(3) その他

- ・第67回優良公民館表彰について

資料4に基づき、教育部次長報告ののち、南公民館長より説明。

委員：申請の手順はどのようになっているのか。

教育部次長：埼玉県教育委員会を通して、文部科学省から各市町村へ推薦の依頼が来て、南公民館を推薦したという流れである。

- ・各館事業チラシ紹介

資料5に基づき、各公民館長より説明。

5. 閉会 副会長挨拶